

とぎめき

新年度がスタートしました

- ◎新会長挨拶
- ◎「草刈り女子育成教室」の草刈り復習教室開催
- ◎土岐小と北中で環境整備のCS活動を実施
- ◎土岐川に鯉のぼり舞う
- ◎美しくなった水辺の楽校
- ◎JR東海さわやかウォーキングが開かれました
- ◎地域防犯活動の協力者を募集しています
- 【こらむ探訪と再発見】「ツバメ」
- 【郷土再発見】鶴城地区：鶴ヶ城址
- ＜差込ページ＞まちづくり事業計画・予算・委員一覧

写真：高屋橋横のレンゲソウ畑から望む下沢橋と工事が進む瑞浪恵那道路の陸橋



*レンゲソウ畑は空気中の窒素を土壤に固定して、それを有機肥料として利用する農法で、化学肥料や農薬を使わずに安心して食べられるお米をつくることができます。レンゲソウは別名「紫雲英」と表記し、こちらは「ゲンゲ」と読みます。

新会長挨拶

今年度から前任の土屋会長の後を引き継ぐことになりました。安田と申します。今までは、部会長、副会長として、土岐地区のまちづくり、を盛り立てて来ましたが、今後はトップという立場で自分なりに出来る範囲で、まちづくりのスタッフと共に頑張っていきたいと思っておりますので、皆さまの温かいご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて今年度は、まちづくり役員任期の2年目にあたり、前年度の事業を引き継ぎながら改良を加えてより良い形にして取り組んでいきたいと思っております。各部会の事業は、まず「情報発信部会」広報誌「ときめき」でまちづくり活動の情報を発信していきます。次に「あんしん環境部会」地域防災力強化事業として「学ぼうさい」を行います。そして「ふれあい部会」「草刈り女子育成教室」をとおして、地区の様々な人達と触れ合い、住環境の向上に取組んでいきます。「青少年育成部会」親子にふるとカルタを用いた地区内の史跡巡りゲーム「トレジャーウォーキング」を行い、史跡再発見活動をしていきます。

一年間、どうぞよろしくお願いいたします。



土岐地区まちづくり推進協議会
会長 安田 善一朗

「草刈り女子育成教室」の草刈り復習教室開催

5月10日(土)に「草刈り女子」を対象とした『草刈りの復習教室』を消防防災センターと土岐川河川敷で開催しました。参加者は一期生5名と二期生6名の合計11名でした。

ふれあい部会員講師による復習講義の後、河川敷で実際に草刈りの復習を行いました。

実地復習の後、(株)ヤクルト東海さんの協力により、腸年齢のチェックや体の内部からの肌美容に関する講話、肌年齢測定を実施しました。その後、参加者同士の自己紹介や草刈りに関するトピックについて和やかに歓談し、良い交流が生まれました。草刈り女子育成教室参加後に何度も草刈りを行った方や初めての方など様々でしたが、良い復習となったようです。

今年も草刈り教室(秋開催予定)を実施する予定ですので、ぜひ「草刈り女子」の仲間に加わってみませんか。



河川敷での復習実習の様子



復習講習の様子



(株)ヤクルト東海さんによる講話

土岐小と北中で環境整備のCS活動を実施

5月8・9日、土岐小学校で5月24日(土)の運動会に向けて、地域住民の参加・協力で運動場の草取り活動を実施しました。

また、5月10日(土)には、瑞浪北中学校で5月23日(金)の体育大会に向けて、北中5校区からの住民有志16名による運動場の周辺法面の草刈り活動を行いました。地域を挙げて子どもを守り育てるコミュニティ・スクール活動が定着してきています。



土岐小学校のCS草取り活動の様子



北中学校のCS草刈り活動の様子

土岐川に鯉のぼり舞う

4月19日(金)、今年も、「土岐川河川敷に鯉のぼりを揚げる会(代表: 可知正己さん)」の皆さんによって、土岐小学校と桔梗こども園南の河川敷に鯉のぼりが揚げられました。地域住民やこども園や小学校の子どもたちから沢山の喜びの声が寄せられました。



桔梗こども園から土岐小学校までの河川敷で泳ぐ鯉のぼり

美しくなった水辺の楽校

岐阜県多治見土木事務所が、土砂や草で埋まっていた水辺の楽校を美しく整備しました。初夏の水遊びや水生動物との出会いなど多くの子ども達が「水辺の楽校」を活用して自然とのふれあいを深めてくれることを楽しみにしています。



見違えるほど綺麗になった水辺の楽校

JR東海さわやかウォーキングが開かれました

4月29日(火) 昭和の日の祝日、爽やかな青空の下、春のJR東海さわやかウォーキングが開催されました。今回のウォーキングは「下街道」散策とクラフトビール醸造所を訪ねての瑞浪駅から釜戸駅までの約8.4km(所要時間約2時間10分)のコースで実施され、スタートの瑞浪駅受付で1280名のウォーキング参加がありました。鶴城の秋葉組集会所広場では、かたりべの会と土岐地区まちづくり推進協議会が地域紹介の案内や登城印やふるさとカルタの販売を行い参加者とのふれあいを深めました。



鶴城の大黒さま・鶴ヶ城入り口の秋葉組集会所の様子

地域防犯活動の協力者を募集しています

土岐地区まちづくり推進協議会のあんしん環境部会では地域防犯活動の一環として「青色回転灯防犯パトロール(略称『青パト』)」を行っています。近年高齢化に伴い協力者が辞められ、協力者の不足が課題となっています。4月19日(土)の土岐小学校 PTA 総会の学年懇談会へ、直接まちづくり役員が出向いて、保護者に協力の依頼を行いました。

犯罪の起こりにくい、起こさせにくい安全で安心なまちづくり目指して、小学校の通学路を青パトで巡回したり、低学年の下校の見守りなどを行います。

協力の申込等詳しくは、各地区の回覧板でお知らせしますので協力をよろしくお願いします。



PTA 学年懇談会で協力をお願いしました



「ツバメ」



ほとんどの野鳥は人気のない場所を棲み家としますが、スズメとツバメは人間が住む近くの人工物に巣をつくります。人が多いとネコやカラスなど、ヒナをおそう敵が巣に近づきにくくなるためだと考えられています。スズメやツバメは安全にヒナを育てるために、人間を利用しているのです。特にツバメは家屋の人の気配の多い出入口や窓のある付近に巣を作りたがります。閉店した店の壁にツバメの巣が残っているのは見かけても、ツバメの姿を見ることはありません。人がいなくなると、ツバメも巣を作らなくなるのです。

スズメは渡りをせず国内に留まって繁殖し、真冬でも庭先や屋根で姿を見かけますが、ツバメは、冬に姿を見ることはありません。春になるとフィリピンやベトナム、マレーシアなどの東南アジアから飛来し、夏の時期は日本で過ごして9～10月の秋ごろに子育てを終えると群れで東南アジア方面に移動する渡り鳥です。ツバメのオスはメスより先に前年に作った巣を探してメスを待ちます。前年の巣が使えない場合はその場でメスを待つかその近所に残っている巣を探し、まだその巣のオスが戻っていないときはそれを占領します。オスの到着後、5日以内にメスが到着すれば前年と同じペアで繁殖し10日以内なら半数が同じメスとペアで繁殖します。また10日以上待ってもメスがやって来ないときには別のメスとペアになり、オスよりメスが早く到着した場合はほとんどのメスはオスを待つことなく、新しいオスを探して繁殖するようです。

今回が初めての繁殖期となる若いオスのツバメは、日本に飛来するとすぐに繁殖の相手となるメスを探し、ペアのメスが決まると田んぼから土を運んで巣を作り始め、メスを待ちます。ツバメは基本的には生涯一夫一妻制で、ペアが決まっているツバメは、また同じ相手と繁殖するのが基本です。ツバメの成鳥は去年の巣を憶えていてその近くに戻ってくるようです。ツバメは基本的に群れで寝る鳥ですが、子育て中は、完全な「核家族」で巣の近くで寝ます。普通はメスが巣で寝て、オスは巣の近くで寝ます。ツバメの寿命は短く、平均2年程度といわれています。東南アジアとの長距離の渡りの途中で死亡したり、移動中や子育て中にカラスやタカ、ヘビ、猫などの天敵に襲われて命を落とすものも多いのが寿命が短い理由です。



ツバメは約3000kmもの距離を渡ります

(この記事は、「ツバメ」に関するインターネットサイトを参考に作成しています)

『郷土再発見』

鶴城地区

鶴ヶ城址

築城は、鎌倉初期で土岐を称した光衡から頼貞までの代々土岐氏の本城でしたが、頼貞の子、頼遠が長森城(岐阜市)に居館を移した為、鶴ヶ城は弟の頼兼の居城となりました。

天正10年(1582)の織田・武田の戦では、織田信長も鶴ヶ城に入城したと言われています。慶長年間には、岩村城の出城となりましたが、関ヶ原戦後に廃城となりました。主郭付近は土岐神社の境内となっており、東西の出丸跡の先端部が中央自動車道建設(1973年)により無くなりましたが、遺構は現在も良く保たれています。

鶴が左右に両翼を張った形に似ていることから鶴ヶ城とよばれていました。毎年4月に交通安全祈願祭が行われ鶴城地区民が参加し、管理しています。



鶴ヶ城址の頂上の本丸跡

発行元 土岐地区まちづくり推進協議会

連絡先

☎0572-56-0136 (直通)

加藤

編集 情報発信部会

発行日

令和7年6月